

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加したコース	社会探求コース		訪問国	ドイツ	
学校名	角川ドワンゴ学園 N 高等学校	氏名	石橋美心	学年	1

1 目的・応募理由

今回の留学の目的は、動物福祉先進国ドイツの実態を調査し、自分の世界に対して視野を広げること。応募したきっかけは、日本、静岡の動物福祉を変えたかったから。日本は、世界と比べて動物福祉が遅れていて、犬猫殺処分やペットショップ生体販売などが行われている。それに比べて、動物福祉先進国のドイツは、犬猫の殺処分0、ペットショップでの犬猫生体販売禁止を実現している。そんなドイツで、最先端の動物福祉を学び、その学びを活かし、日本、静岡の動物福祉情勢を変えるために応募した。

2 研修内容

9月1日 ドイツ・ミュンヘン到着

9月2日～9月15日 語学学校に通いながら、ミュンヘンティアハイムの視察

- ・視察の案内
- ・動物舎の見学
- ・インタビュー
- ・野生動物の保護の県学
- ・安楽死の同行

9月16日～9月29日 語学学校に通いながら、ペットショップの視察

- ・日本との商品の違い調査
- ・生体販売の実態
- ・小動物の環境
- ・インタビュー

9月30日～10月6日 語学学校に通いながら、動物園の視察

- ・エンリッチメント（動物が暮らす環境の工夫）調査
- ・日本との違い

ペットショップでの小動物の展示の様子

ミュンヘンで一番大きい動物園

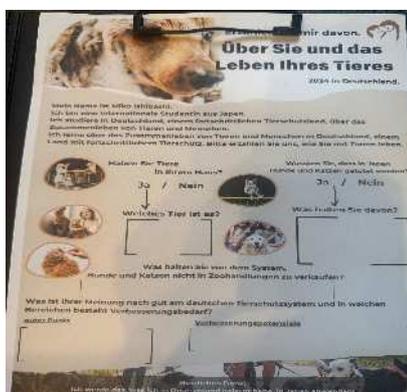
街中の動物環境調査も行なった

街中には、犬の飲み水が置いてあり、ゴミ捨て場もたくさんあった。

ペットショップ以外にも、スーパーやドラッグストアで、ペットグッズの調査をした。



動物の里親探し掲示板



アンケート調査に使った用紙



実際に行ったペットショップ

感想

初めての海外で不安もあったが、自分の学びたいことを学ぶことができ、語学力も上達することができて、世界に対しての視野が広がった留学だった。自分が想像していたドイツの動物福祉は、全てが成功していて完璧なイメージだった。けれど、実際にいってみて。ドイツの動物福祉の課題を知ることができて、どんな先進国でもまだまだ改善点はたくさんあることがわかった。日本の現状も再確認することができて、新たな学びをたくさん発見することができて、様々な体験をすることができた。この留学を通して、学んだことを活かして、日本、静岡の動物福祉情勢を変えたいと、改めて思うことができた。



ペットショップでの小動物の展示の様子



ミュンヘンで一番大きい動物園